

平成26年度「青少年の健全育成を進める県民大会」



オープニング



司会

平成26年7月12日（土）海老名市文化会館大ホールにおいて、青少年の健全育成を進める県民大会が、「青少年の健やかな成長を支える地域社会づくり」をテーマに、柏木学園高校の生徒司会のもと多数の参加者を得て開催されました。

◆オープニング

大会は、中央農業高校の和太鼓の演奏で始まりました。素晴らしいステージに「迫力ある演奏で、地元の高校生の生き生きとした活動を見られてよかった」との感想が寄せられました。

◆基調講演

鎌倉女子大学の春日美奈子教授を講師に迎えて、「心の居場所の大切さ～大人たちは子どもに何ができるのか～」をテーマに講演をいただきました。

子どもの問題行動は病める社会の反射鏡で、大人の醜い部分が純粋な子どもの世界に映し鏡となって現れてくる、と語られ、「心の居場所」がない子どもたちのために、子どもたちが何でも話せる場所をつくり、子どもの心に言葉を届け、耳を傾けられる大人であることが、大切になることを強調されました。

最後に、私たち大人が心と体の健康に留意して、自分なりの夢と希望を持って生きている姿を子どもたちに見せてあげて欲しいと結ばれました。

◆パネルディスカッション

「みんなで考える、青少年の居場所づくり」をテーマ

に、中央大学の矢島教授の進行により春日教授と有馬高校の加留部教諭、海老名高校の2名の生徒をパネリストに迎え、パネルディスカッションが行われました。

加留部教諭は、今の生徒は自己主張が弱く、集団の中でばらばらのことをしているなど、生徒同士のかかわり方が変わってきたと発言されました。

高校生からは、家庭や学校が自分の居場所になっており、問題行動を起こす友達の場合は、誰にも構ってもらえないことが多く、ネットに依存しやすい状況であることを紹介してくれました。

また、春日教授は、家庭の養育機能の低下やコミュニティ機能の崩壊など、社会のひずみが一番弱いところに現れている。どこにも居場所がない子どもをいかにすくいあげるか考えなければならないとお話されました。

会場からも、孤立した家庭の親子への働きかけ方など、多数のご質問をいただき、熱心に議論が交されました。

矢島教授は、居場所がないのは子ども以上に親であり、孤立し、援助がなくても問題が起こらない限りこのままで良いと勘違いしている。人間関係という社会資本(居場所)がない親たちに対して、どのように地域、学校がアクションをとれるかが大切になるとまとめられ、パネルディスカッションは終了しました。

最後に、かながわ青少年社会環境健全化推進会議の石井会長が閉会の言葉を述べられ、大会は終了しました。



パネルディスカッション